

**製品名: ANGPTL3 (1Z15) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe06899**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	54kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ANGPTL3
別名	ANG5; Angiopoietin 5; Angiopoietin like 3; ANGPT5; ANGPTL3; ANL3; FHBL2;
遺伝子 ID	27329.0
SwissProt ID	Q9Y5C1
免疫原	ヒト ANGPTL3 の合成ペプチド

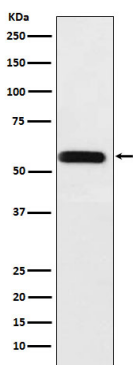
**背景**

脂質およびグルコース代謝の調節に関与するヘパトカインとして部分的に作用する。食物摂取に応じてエネルギー基質を貯蔵組織または酸化組織に輸送する際に役割を果たすことが提案されている（類似性による）。血漿トリグリセリド（TG）に対する刺激効果があり、これは LPL 活性の阻害を介して血漿 TG クリアランスを抑制することにより達成される。脂質およびグルコース代謝の調節に関与するヘパトカインとして部分的に作用する（PubMed:11788823、PubMed:12909640、PubMed:23661675、PubMed:25495645）。食物摂取に応じてエネルギー基質を貯蔵組織または酸化組織に輸送する際に役割を果たすことが提案されている（類似性による）。血漿トリグリセリド（TG）に対する刺激効果があり、これは LPL 活性の阻害を介して血漿 TG クリアランスを抑制することにより達成される。LPL 活性の阻害は、プロタンパク質転換酵素 PCSK6 および FURIN を LPL にリクルートし、LPL を細胞表面から切断・解離させる間接的なメカニズムであると考えられる。この機能は ANGPTL3 によるタンパク質分解を必要とせず、N 末端ドメインによって媒介され、GPIHBP1 によって阻害されない（PubMed:12097324、PubMed:19318355、PubMed:20581395）。内皮リパーゼを阻害し、高密度リポタンパク質（HDL）コレステロールおよびリン脂質の血漿濃度を上昇させる（PubMed:17110602、PubMed:19028676）。脂肪細胞に結合して脂肪分解を活性化し、遊離脂肪酸およびグリセロールを放出する（PubMed:12565906）。酸化組織において特異的に LPL を抑制します。これは、食物への反応として超低密度リポタンパク質（VLDL）-TG を白色脂肪組織（WAT）へ輸送し、貯蔵するために必要なものです。この機能は、WAT における循環肝由来の ANGPTL8 および ANGPTL4 の発現と連携して働く可能性があります（類似性に基づく）。APOE および LDLR が関与する標準的な経路とは独立したメカニズムにより、血漿中の低密度リポタンパク質（LDL）コレステロール濃度を低下させます。視床下部の LPL 活性を刺激する可能性もあります（類似性に基づく）。

## 研究分野

心血管系、血管新生増殖因子、VEGF、シグナル伝達、代謝、エネルギー代謝、脂質代謝、肥満、がん

## 画像データ



A375 細胞溶解物における ANGPTL3 発現のウェスタン ブロット解析。